

## 食と農への関心・関わり度についてのアンケート結果

本県では、本県農業・水産業の基本的な施策の展開方向を示す「滋賀県農業・水産業基本計画」(計画期間:令和3年度～令和7年度)を策定し、基本理念「県民みんなで創る 滋賀の『食と農』を通じた『幸せ』」の実現に向けて施策を進めています。

このたび、計画の策定や推進に役立てるため、「食と農への関心・関わり度」についてアンケートを実施しました。

★調査時期：令和5年8月

★対象者：県政モニター296人

★回答数：261人(回収率88.2%)

★担当課：農政水産部 農政課

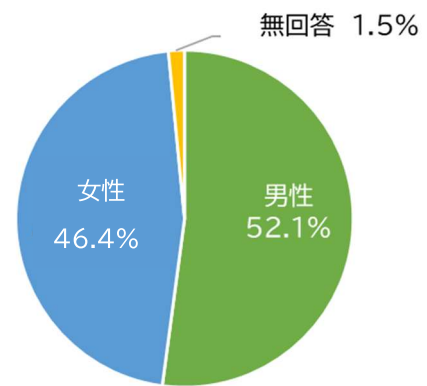
※四捨五入により割合の合計が100.0%にならない場合があります。

### 【属性】

#### ◆性別

項目	人数(人)	割合(%)
男性	136	52.1%
女性	121	46.4%
無回答	4	1.5%
合計	261	100.0%

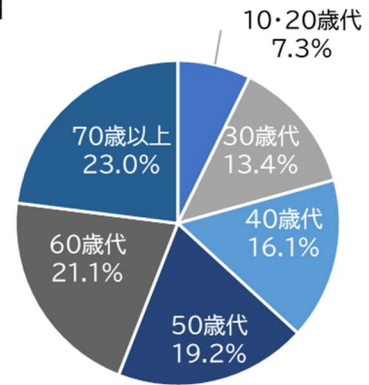
### 【性別】



#### ◆年代

項目	人数(人)	割合(%)
10・20歳代	19	7.3%
30歳代	35	13.4%
40歳代	42	16.1%
50歳代	50	19.2%
60歳代	55	21.1%
70歳以上	60	23.0%
合計	261	100.0%

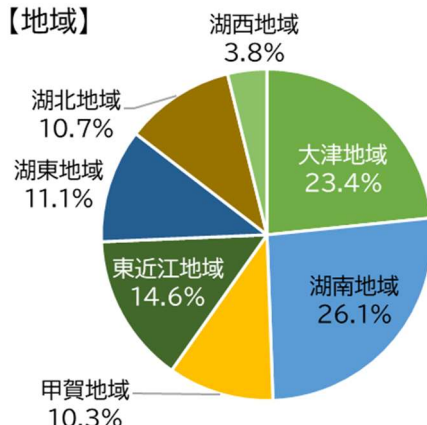
### 【年代】



#### ◆地域

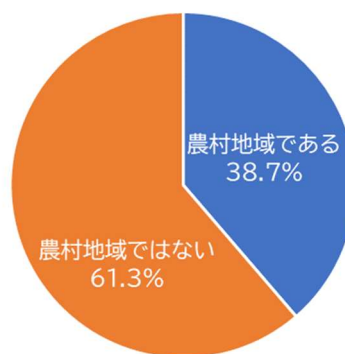
項目	人数(人)	割合(%)
大津地域	61	23.4%
湖南地域	68	26.1%
甲賀地域	27	10.3%
東近江地域	38	14.6%
湖東地域	29	11.1%
湖北地域	28	10.7%
湖西地域	10	3.8%
合計	261	100.0%

### 【地域】



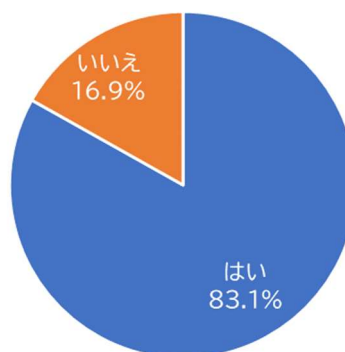
問1 お住まいはご自身から見て農村地域ですか。(回答チェックは1つだけ n=261)

項目	人数(人)	割合(%)
農村地域である	101	38.7%
農村地域ではない	160	61.3%
合計	261	100.0%



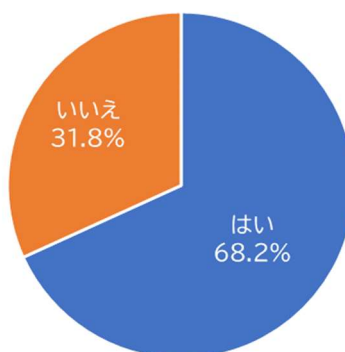
問2 ご自身が食べる食材について、産地や生産者などを見て、選んで購入することはありますか(ご自身で生産しているものを除く)。(回答チェックは1つだけ n=261)

項目	人数(人)	割合(%)
はい	217	83.1%
いいえ	44	16.9%
合計	261	100.0%



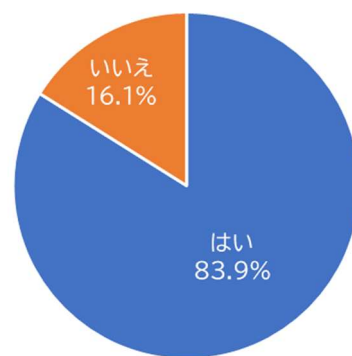
問3 ここ1週間の食事の中で、滋賀県産の食材や滋賀県産の食材が使われている商品を選んで購入しましたか(ご自身で生産しているものを除く)。(回答チェックは1つだけ n=261)

項目	人数(人)	割合(%)
はい	178	68.2%
いいえ	83	31.8%
合計	261	100.0%



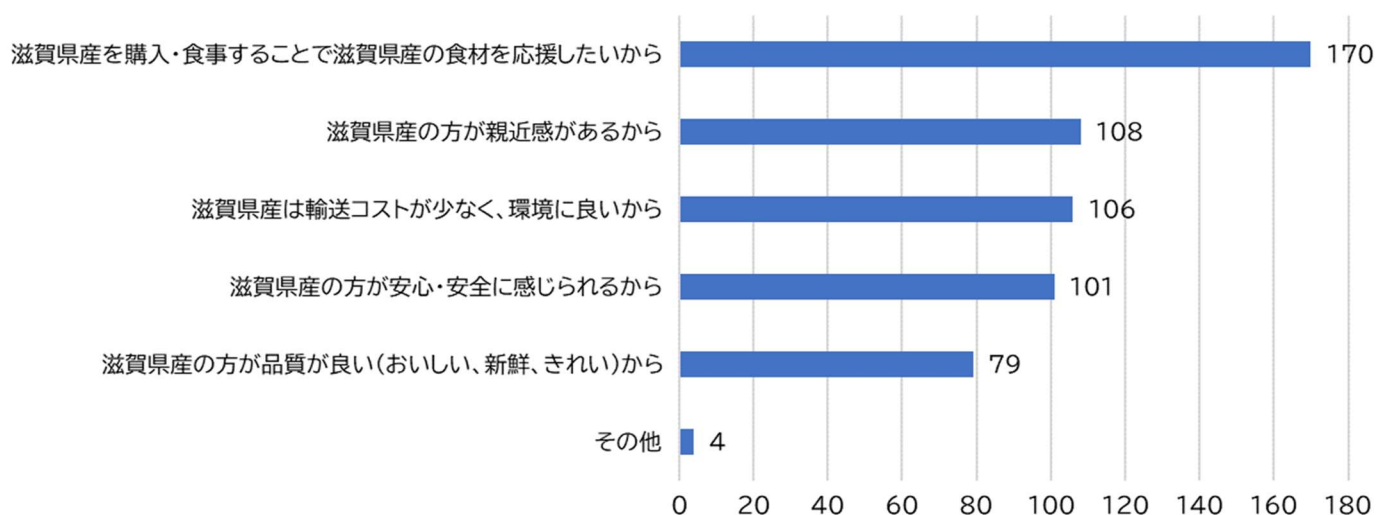
問 4 滋賀県産の食材や、滋賀県産の食材が使われている商品ができる限り買いたい・食べたいと思いますか。(回答チェックは1つだけ n=261)

項目	人数(人)	割合(%)
はい	219	83.9%
いいえ	42	16.1%
合計	261	100.0%



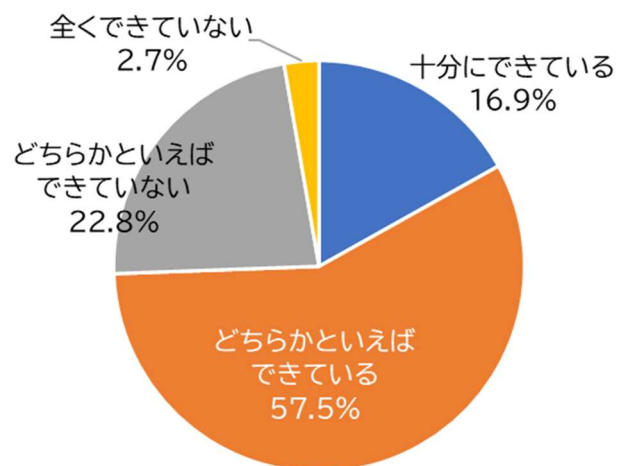
問 5 問4で「はい」と回答された方におたずねします。その理由は何ですか。(回答チェックはいくつでも n=219)

項目	人数(人)	割合(%)
滋賀県産を購入・食事することで滋賀県産の食材を応援したいから	170	77.6%
滋賀県産の方が親近感があるから	108	49.3%
滋賀県産は輸送コストが少なく、環境に良いから	106	48.4%
滋賀県産の方が安心・安全に感じられるから	101	46.1%
滋賀県産の方が品質が良い(おいしい、新鮮、きれい)から	79	36.1%
その他	4	1.8%



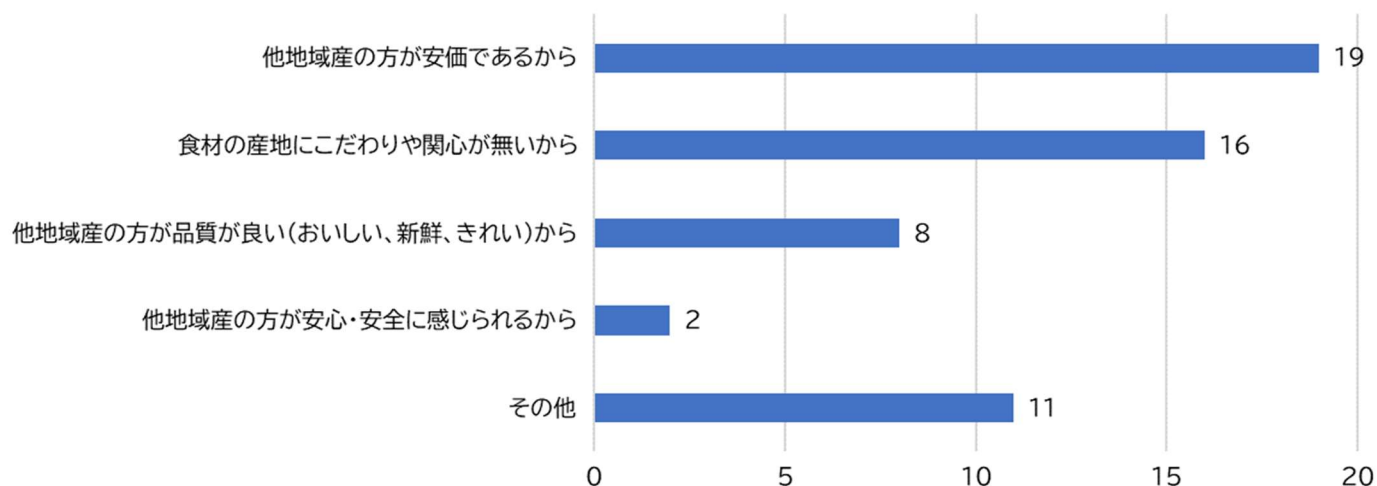
問 6 問4で「はい」と回答された方におたずねします。滋賀県産の食材や滋賀県産の食材が使われている商品を、欲しい時に欲しい量を買うまたは食べることができますか。(回答チェックは1つだけ n=219)

項目	人数(人)	割合(%)
十分にできている	37	16.9%
どちらかといえばできている	126	57.5%
どちらかといえばできていない	50	22.8%
全くできていない	6	2.7%
合計	219	100.0%



問 7 問4で「いいえ」と回答された方におたずねします。その理由は何ですか。(回答チェックはいくつでも n=42)

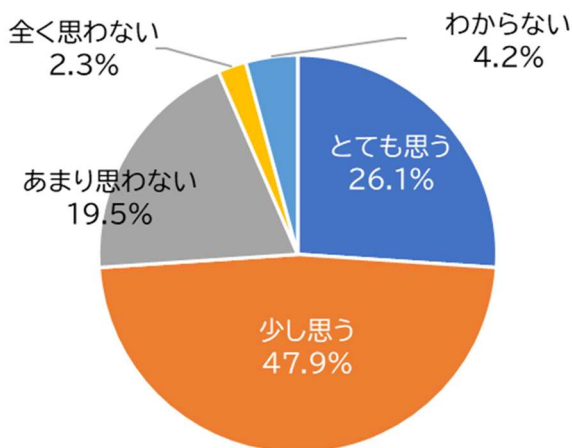
項目	人数(人)	割合(%)
他地域産の方が安価であるから	19	45.2%
食材の産地にこだわりや関心が無いから	16	38.1%
他地域産の方が品質が良い(おいしい、新鮮、きれい)から	8	19.0%
他地域産の方が安心・安全に感じられるから	2	4.8%
その他	11	26.2%



問 8 滋賀県は農山漁村が身近にあり、農作業や様々な体験、農畜水産物の購入等の多様な場面で農業・水産業との関わりを持つことができます。

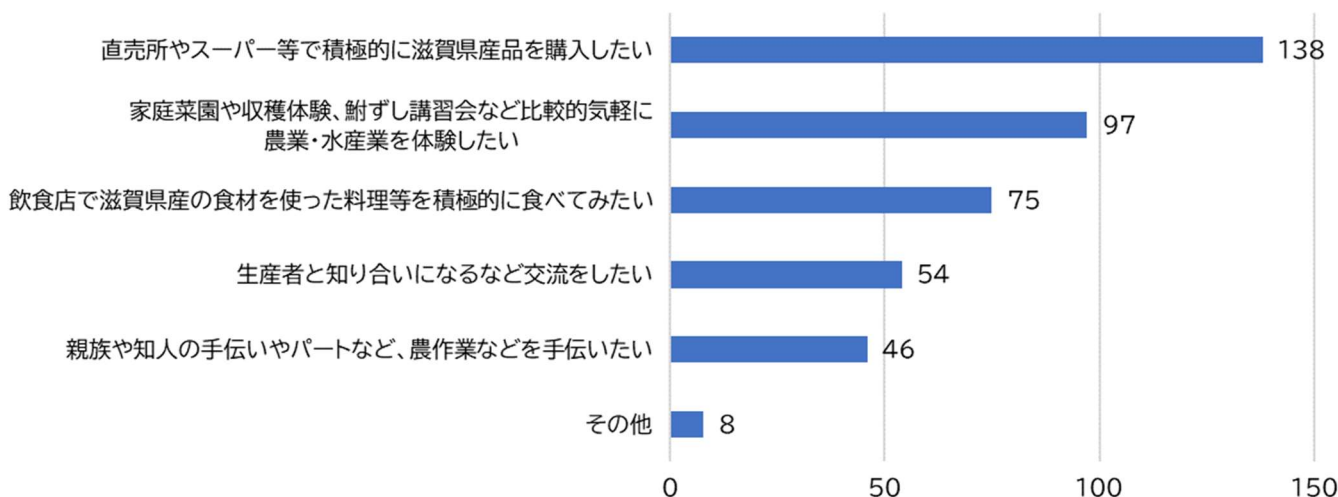
ご自身の生活の中に何らかの方法で滋賀県の農業・水産業と関わりを持ちたいと思いますか。(回答チェックは1つだけ n=261)

項目	人数(人)	割合(%)
とても思う	68	26.1%
少し思う	125	47.9%
あまり思わない	51	19.5%
全く思わない	6	2.3%
わからない	11	4.2%
合計	261	100.0%



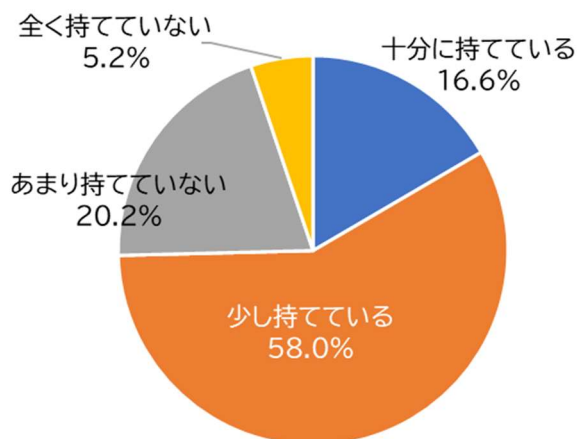
問 9 問8で「とても思う」または「少し思う」と回答された方におたずねします。どのような形で農業・水産業との関わりをもちたいですか。(回答チェックはいくつでも n=193)

項目	人数(人)	割合(%)
直売所やスーパー等で積極的に滋賀県産品を購入したい	138	71.5%
家庭菜園や収穫体験、鮎ずし講習会など比較的気軽に農業・水産業を体験したい	97	50.3%
飲食店で滋賀県産の食材を使った料理等を積極的に食べてみたい	75	38.9%
生産者と知り合いになるなど交流をしたい	54	28.0%
親族や知人の手伝いやパートなど、農作業などを手伝いたい	46	23.8%
その他	8	4.1%



問 10 問8で「とても思う」または「少し思う」と回答された方におたずねします。現在の生活の中で、実際に関わりを持っていますか。(回答チェックは1つだけ n=193)

項目	人数(人)	割合(%)
十分に持っている	32	16.6%
少し持っている	112	58.0%
あまり持っていない	39	20.2%
全く持っていない	10	5.2%
合計	193	100.0%



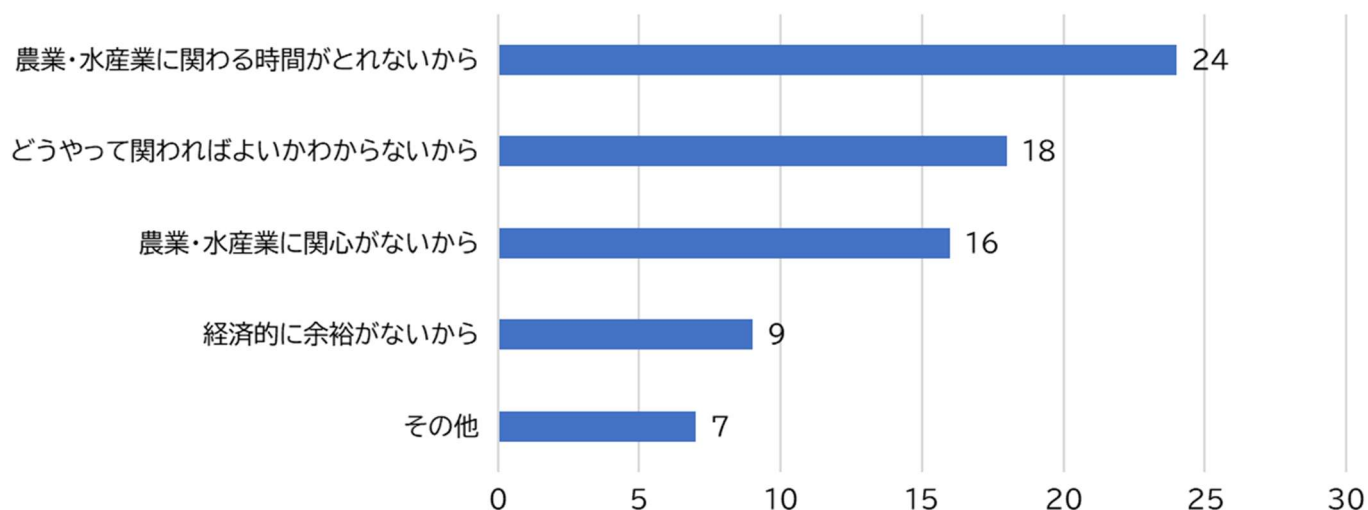
問 11 問 10 で「あまり持っていない」または「全く持っていない」と回答された方におたずねします。その理由は何ですか(抜粋)。

【主な意見】

- ・関心はあるが、日常生活で関わりを持つことが難しい。水産資源については、食べ慣れないことと、少し高価な印象。安く買えて身近になればと思う。
- ・機会がない、滋賀県産のものを取り扱っているお店が近くに少ない。
- ・滋賀県の居住歴が浅く、また県内都市部に在住のため、スーパーなどで地元産商品を購入すること以外での関わりがほとんど持っていない。
- ・スーパーや店舗関係でのそういう機会がない。
- ・市街地に住んでいるため、体験に参加する機会や参加のための交通手段がない。
- ・関わりを持つきっかけがないのと、相手側からそのような時間を取ることへの遠慮もある。
- ・どこで交流の機会を得られるのか分からない。農業・水産業体験の多くが小さい子供や小学生向けのプランになっていると感じることが多い。
- ・体験会などどこで参加すればいいか分からない、ないしは開催自体が少ないとおもうから。
- ・どこで情報を収集したらいいのかわからない。
- ・関心はあるが何が出来るのかよく分からない。

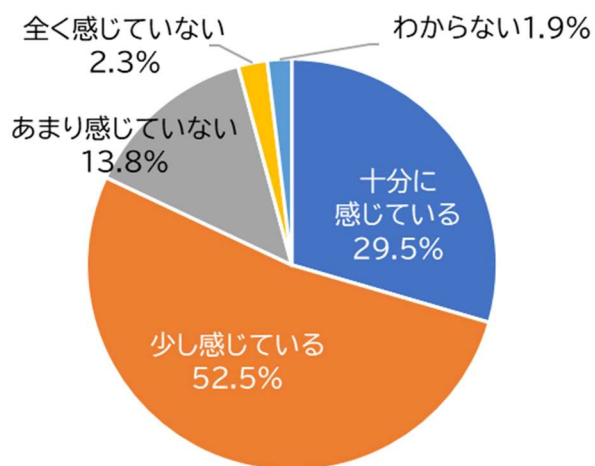
問 12 問8で「あまり思わない」または「全く思わない」と回答された方におたずねします。その理由は何ですか。  
(回答チェックはいくつでも n=57)

項目	人数(人)	割合(%)
農業・水産業に関わる時間がとれないから	24	42.1%
どうやって関わればよいかわからないから	18	31.6%
農業・水産業に関心がないから	16	28.1%
経済的に余裕がないから	9	15.8%
その他	7	12.3%



問 13 滋賀の食と農を通じて、農産物を作る楽しさ、食べる楽しさ、田園風景から感じる心の安らぎ等といった「幸せ」を感じられていますか。(回答チェックは1つだけ n=261)

項目	人数(人)	割合(%)
十分に感じている	77	29.5%
少し感じている	137	52.5%
あまり感じていない	36	13.8%
全く感じていない	6	2.3%
わからない	5	1.9%
合計	261	100.0%



問 14 その他、あなたの暮らしの中の「食と農」についてご意見がありましたらお聞かせください。(400 字以内・任意 抜粋)

【主な意見】

<農業・水産業と関わる機会について>

- ・琵琶湖と水産業との関係だけではなく、農業との繋がりを意識するようになった。大きなシステムとして有機的な関係性が成立している仕組みを理解すると、農産物に対する関心も高まる。
- ・生産者と直接つながりをもち、安全安心な食材を安価に購入する循環ができればいいと思う。
- ・スーパーの地場農産物コーナーをよく利用する。商品ラベルに生産者の名前が記載されていると親近感を感じたり、美味しかった生産者の農産物をリピート購入することもある。SNS や広報紙を活用して生産者の人柄や農産物に対する思いを発信する機会が増えると良い。
- ・作物を育てること、調理すること、それを食べることが特別な体験でなく日常の営みとなればよいと思う。例えば隣近所で田畑と一緒に利用し、たまに収穫と一緒にしてご飯を食べることで地域コミュニティの形成が促進されると思う。
- ・食材それぞれの家庭での調理法、販売店の紹介、食材の魅力などの情報を提供して欲しい。生産者からも情報提供してほしい。

<地産地消について>

- ・最近滋賀県産もスーパーで比較的好く見るようになって購入する機会が増えた。特別に美味しいとは正直思えないが、他県産と同じ値段であれば滋賀県産を購入すると思う。もっともっとスーパーでいろんな野菜を出荷してほしい。
- ・貸し農園での栽培を通じて地産地消を体験できる仕組みを地域と行政が共に作ってほしいと思う。
- ・県民として自信をもって滋賀県産を推奨しているが、スーパーなどでは県産食材が少ないと感じる。何とか行政主導でもっと手近に購入できるよう指導していただきたい。
- ・自分にとっては滋賀県産の農水産物は身近だが、田舎に住んでいてもそうでない人も多い。地元産をもっとアピールするとか、購入に対する補助をするなどして良さを知ってもらいたい。
- ・道の駅や農協直営の店などでは滋賀県産のものが買えるがスーパーではあまり品揃えが良くないのでスーパーでも滋賀県産のものが買えると嬉しい。

<食と農を通じた幸せについて>

- ・以前に比べて田畑が工場、宅地に変わった。その中で数少ない田んぼの横を自転車で通り、毎日稲穂を見て育っている、いい香りを感じる時が滋賀県に生まれ生活ができて幸せだと思う。
- ・都心とは違って市街地からも少し行くと田畑があったり琵琶湖があったり 直売所では生産者の名前入りの食材が並んでいたり季節を感じながら生活出来るのが幸せだ。
- ・家庭菜園で野菜を作り出してから、自然との触れ合いに心癒される。またカエル、トンボ、イタチ、ハクビシンが身近にいると知り、人間も共に生きてると感動する。小さな農園ですが、農が食と結びついた。

<価格について>

- ・子どもの頃は湖魚も安価でもっと自由に食べられたと思うが、今は高級でなかなか食べられない。
- ・地産地消がいいと思うけど最近物価が高いので手を出せないのが現状。
- ・スーパーで地元産のコーナーを作っているところが多く見受けられるが、ほとんど高いのはなぜか。



### <その他>

- ・「食と農」については、誰もが密接に感じていると思うし、今後ますます重要になってくると思うので、小中高でもっと『食育』について学ぶ機会を増やして欲しい。
- ・農業生産者の声(例えば、収穫物に関する情報など)と、消費者のニーズをマッチングして、両方の要望を実現するため、道の駅だけでなく、マッチングアプリのようなネットワークを滋賀県として、もっと充実することを考えてはどうか。
- ・安心と安全をもっと可視化できるようにして欲しい。安全と言われたものが実際の生産現場に行ったらそうでは無いことがあったから、もっと厳格な制度を作り監視認証制度の拡充をはかれば、高価なものでも買うだろう。
- ・滋賀のこの農村風景を守って行きたい。農家をできる限り県としても支援して欲しい。
- ・作り手不足で農耕地が宅地化されたり、休耕して荒地になり、せっかく美味しい食材があるのに生産量、流通量が少なくなり知名度も上がらない。若い作り手を育成、支援してあげて欲しい。
- ・環境こだわり米が滋賀県のスタンダードであることが誇りであると同時に野菜も同基準の厳しいものにしてほしい。そうすることで滋賀県全体の農業がブランド化されていく。他県の食材とは違うという自負が生まれる。
- ・近江牛や近江米以外に全国レベルの知名度のある農作物ブランドを作っていく必要がある。今後、円安がつづくことが予想されるため、海外への輸出を意識した商品開発や品種改良などが必要と考える。